

カレンダー 平和の一助に

東北福祉大の学生サークルが、戦争や貧困で厳しい状況にある世界の子どもたちが描いた14枚の絵を使い、2025年版のチャリティーカレンダーを製作した。30日と12月1日、仙台市青葉区の藤崎大町館前で販売する。

テーマは「あなたにとっての宝物」。14カ国の6～18歳の子たちが大切な思い出や家族、景色を描いた。ウクライナの10歳の少年は漫画に登場する神秘的な森の生き物を明るい色調で表現。シリア出身で、内戦のためイラクに避難した10歳の少女は、ペットの鳥と暮らす幸せを絵にした。

国際非政府組織（NGO）のピースウィンズ・ジャパン（PWJ）を通じて集めた絵の中から、フォークデュオ「ゆ

ず」の北川悠仁さんやシンガー・ソングライターのイルカさんらが掲載作を選考した。同大の学生サークル「ワールドチルドレン芸術祭」の学生6人は4月にテーマを決め、選考者や印刷会社とのやりとり、子どもたちのコメントの翻訳などを手がけた。

学生代表で総合マネジメント学部3年飯島陽斗さん(21)は「平和に学べることに幸せを感じる子どもがいる。現地の子どもたちの力になるよう、カレンダーを手にとってもらいたい」と協力を呼びかける。

カレンダー製作は2007年に始まり、コロナ禍に伴う休止を経て22年版から再開。昨年はスポンサー収入を含め約157万円の収益があり、海

東北福祉大生、チャリティー製作

外の子たちの教育支援などに充てた。

A4判、1000円。1500部用意した。藤崎前での販売は午前10時～午後3時。PWJの

ウェブサイトでも取り扱う。クリアファイル（400円）、ポストカードとステッカー（各100円）もある。連絡先は芸術祭charity@tfu.ac.jp

仙台で販売へ 世界の子の絵使用



チャリティーカレンダーを製作した学生たち